# 日本山海名物圖會　四

住吉宝市
摂州住吉大神宮毎年九月十三日宝の市とて大神事
住吉大神宮常夜燈

## 大和三輪素麺

名物なり細きこと糸のごとく白きこと雪の
ごとしゆでゝふとらず余国より出るそうめん
の及ぶ所にあらず又阿波より出るもの名産なり三輪そうめんよ
およそ三輪ハ大己貴命のみことなれ神社の古神跡狭井山まて
ならびまて社いかめしく参詣の人おほきゆへ三輪の町繁昌にて
旅人をとゞむるちやゝやよも名物ありとてそうめんふてりてあふれく

## 伊豫牛房

ふとくして其味よし長さハ三四尺もあり牛房の名物ハ城州八幡牛房名物にて其名高しといへども大いさ伊与牛房に及ばず○牛房の実を大力子といひ種物にて悪実と一種のものハ早速に咽の腫をひらき瘡を出す事中華にハ牛房の茎葉のこと蒸して其根ハ人あまく食せぬよし本草綱目にくはし



假使項羽のカありとも鋤なくてハ牛房ぬきがたし

## 松前昆布

奥州松前の海中の石につきて生ず長さ数丈海上にうかび出るを長柄の鎌にて舟より是を切て取あげ人家のやねをふく又家のやねを昆布にてもふく○若狭昆布是ハ松前より出るをおほくハ若狭より備へてこしらへて売之名高くありけり○松前より乾鮭鯡干海鼠串鮑おほく出る

## 松煙取圖

肥松の油煙あり又ハ唊墨とも云これをとるにハ四方障紙にてかこひ其中ニて松をとぼし其上を天井にして紙にて張て
つけてすゝたまる也其上の方ニたまるをはきて取るを松煙と云なり
唐煙といふハ油煙のかはりの事なり松をとうしらへ多く油煙をとり障紙まで其ゆひて其上にたまるを取る〇又太平墨などいふ下品の松煙ハ樫松の煙よ
あしく瓦やきの竈のごとくにこしらひて松の新木をたきて其上にたまる煤をとるなり

## 加賀笠

菅笠は諸国よりおほく出れども中にも加賀をよしとす第一
菅の色白く糸ぬひこまやかにて至極恰好よし家には難波
菅笠も名物なれば万葉集に　押てるやなにはすげ笠おきふるし後はたがきん笠な
らなくに　又延喜式には摂津国笠縫氏とあり今大坂玉造の東深江村の
民の男女とも菅笠をぬひて家業とせしはいにしへの伝来なるべし

## 天王寺牛儈

備前備中の国にておほく牛を飼てこれを摂州大坂へ登する
事おほし天王寺の孫右衛門と云者牛市のつかさなり此人の
下知をうけされハ諸国より売買する事叶はさるとぞ年中備前備中より牛を引
来ること日々にたへず毎年霜月に牛市有り此とき諸国の百姓おほく
牛を引来りて互に交易売買せられ是を牛博労と云はべし牛を商ふによ
直段を定る内ハ一生に牛に来をまし む見を売買の説とするなりや

京深草陶器

人皇二十二代雄略天皇十七年土師連吾笥と云人土器の細工人を山城国伏見村より召して御器を作らしむ時の細工人今の世まで傳りて伏見人形と云ものを作る其形ハ狐牛のたぐひ又ハ人形の類也是を深草の土器師といへり

# 安藝宮嶋濱市

宮嶋本名ハ嚴嶋と云弁才天の社なり百八十間の回廊石の鳥居にいたり潮満るときハくハいらう共に塩さしのぼる也毎年二度の大市あり去ハ三月十二日より四月八日まで又ハ六月十四日より七月七日まで也諸国より商人おゝく集りて賑ふる市也三月六月十六日十七日十八日神事の能あり六月十七日ハ神事にて船祭ハ次の繪にてみえ侍り

宮嶋舩祭　神事六月十七日神輿を舟にて御旅所へ渡りかへ宮嶋へ一里
むかひは地の御前とて御旅所也神輿御座の時もる井の内へ
管絃あり還御には長浜の御旅所へはいり管絃おはりて大元大明神へ御より
月管絃にて本社へ御帰り也舟のうちには祈禱のまつり燈の紅の花
船の灯籠はぜんせんごとく角にはんどうとくしやうくこの上は宮嶋ゆも火
ともり夜かりは往来の人々の見物ちやうちんまがはひろあきて海上一里ほどくらつゞき

## 有馬籠細工

摂州有馬日本第一の温泉にて四時湯治の人おゝく繁昌の地なり此所の人竹細工に妙を得ていろ／＼の竹籠を作りおほくつくる籠とて名物なり湯治の人買求めて家づとゝもて○駿河の府中又竹籠の名物なれども細工よしすべて細工はまければおのづから関東の人ハみてる籠ハ名をも志らず諸国の籠を売買する多く

## 奈良晒（ならさらし）

麻（あさ）の最上（さいじやう）ハ南都（なんと）なり近国（きんごく）よりも其品数（そのしなかず）々出れども染（そめ）て色（いろ）よく着（き）て身（み）にまとはず汗（あせ）をはじく故（ゆゑ）に世（よ）に奈良（なら）晒とて調宝（ちやうはう）する也晒判（さらしはん）ハ生平（きびら）の時（とき）改（あらため）判（はん）をすへ晒上（さらしあげ）ての改め判ハ南都御奉行所（ごぶぎやうしよ）にて改之長さ六丈七尺五寸と朱印（しゆいん）ある切（きれ）とてあまりの丈（たけ）ハ入ることも木津（きづ）晒あることなし絵なく漂（ひやう）て地（ぢ）やわらかにきんゆうのごとくなるくつまるまくてへんしれ

## 伊吹艾草

伊吹山ハ近江美濃両国のさかひにある大山なり薬草おほく生ず中にもよもぎ名物にて古今より詠歌の餘多のよりたより莖ふとく長さ麻のごとし山下の民家に是をかりてよくつきぬきもぐさとして売る其色白きこと綿のごとし○下野国日光山のふもと標茅原の艾又名物也是を歌よあり「なほたのめしめぢが原のさしもぐさ我世の中にあらんかぎりは

# 河内小山団扇

柄ハ丸竹にてしぶうちはと云大小いろ〳〵あり名物にて貴人高家へも召上られ又農工商賈の人〳〵も常用せり諸国団扇之○和州奈良団扇又名物也小山ハつよしと当らし奈良ハ花奢なるを第一とすもかに京大坂ふも此細工多し○肥前小城団扇又名物也六月十五日は京の祇園祭るとて参詣の人かならずみやげに求て清き事比を用ゆ

# 奥州仙臺紙子

仙臺ハことに地紙をよく紙すしねりさてこしらへる有やはらかにてつやよし奥州ハ木綿のごとくふるき反中へ以下ハゐひく紙子とするなる故奥も大かたハ紙をすきてこしらへるなり

〇其外諸國紙子の名物

肥後八代紙子　播州紙子
紀州花井紙子　美濃十文字　大坂松下一閑紙子

## 天満市側松茸市

大坂天満橋の北つめより天神橋の北づめの西迄を天満市の町と云青物干物なる大市毎日毎夜繁昌せ松茸の頃ハ殊に賑ひし松茸市ハ夜なれハ松明をともして商ふ摂州能勢宇津尾高山よりおびたゞしく出ツ又丹波よりも多く来る○京都にハ高倉通錦小路下ル町に松茸市ありことに繁昌也京にハあたご山高雄山栂尾などより松茸多く出る也

## 道明寺干飯

河州道明寺ハ菅丞相の伯母君の開基にて今も尼寺なり此寺よりほしいゐを為る上白米をむし
ほして磨まて細かにひき袋につめて出す夏暑の時水にひやして用也